

事業実施報告

開催日	キャンプⅠ：令和6年8月31日（土）～9月1日（日） キャンプⅡ：令和6年9月22日（日）		
事業名	テンパーク・みんなでわくわくソロキャンプ～体験を通して防災意識を高めよう～		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	キャンプⅠ：27名 キャンプⅡ：25名
対象	盛岡市・滝沢市及び近隣市町在住の小学校3・4年生		
関係機関名	岩手県教育委員会及び復興防災部防災課、滝沢市防災防犯課、岩手県立青少年施設等		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

自然体験活動の中で自らの衣食住を営んだり、他者とかかわる活動をしたりすることを通して、自らのできることは自分で実行し、難しいことは互いに補いあうことの重要性に気づき、防災の基本となる「自助」「共助」の意識を育むことを目的にキャンプを実施した。併せて、令和7年度を目途に本事業のプログラムや評価方法をモデル化し、青少年教育施設や関係団体に普及するため、企画評価委員会での協議を踏まえながら、事業内容や評価方法のブラッシュアップを図った。

(1) キャンプⅠ（1泊2日）

- ・ソロテント設営や耐熱ポリ袋での炊飯、アイスブレイク・P A等、自助と共助を促す活動を行った。
- ・防災行動計画を立案し、キャンプⅡまでの3週間に家庭や地域で計画を実行するようにした。

(2) 家庭や地域での防災行動計画の実行（3週間）

- ・それぞれ自分が立てた行動計画を日常生活の中で実行した。

(3) キャンプⅡ（日帰り）

- ・防災行動計画の取組状況をグループ内で発表し、全体共有を図った。
- ・災害時の避難所を想定し、カセットコンロを使用した屋内防災炊飯を行った。
- ・多様性についての学びを深めるため、高齢者や妊婦、目の見えない人などのキャップハンディ体験を行い、それら個別の配慮が必要な人々を想定した避難誘導体験を実施した。

〔成果〕

- ・自助・共助意識、防災行動については、児童の防災行動計画とまとめの記述内容に加え、班付きボランティアや保護者の観察による評価から、充実したデータが得られ、確かな向上を見取ることができた。
- ・質問紙を用いて自助・共助意識や防災行動の得点がどの程度変化したかを捉える量的評価も継続して行っており、多角的な評価・分析方法についても実証を積み重ねることができた。
- ・自助・共助の行動を後押しする「ヘルプカード」「できるカード」の工夫、コミュニケーションワークショップの手法を生かしたアイスブレイクやP A、屋内防災炊飯のプログラム化など、普及を見据えて他施設の事業や利用団体の研修支援において取り込みやすい形にできた。
- ・ボランティアの育成について、事前研修及び当日の打合せを入念に行い、本事業の目的や子供に対しての接し方、実際の活動等の確認を行うことで、ねらいに沿った支援につなげることができた。

〔課題〕

今年度で最終報告書をまとめ、次年度は普及の年になる。すでに研修支援として一部プログラムの提供を始めており、県立施設の事業でも実施していただいているので、利用者からのフィードバックを受けながらさらに使いやすいプログラムを目指してブラッシュアップしていきたい。プログラムについての情報提供や出前講座など、効果的な広報活動を展開していきたい。

状況写真



ソロテント設営



アイスブレイク・P A



防災行動計画の作成



防災行動計画の発表会



屋内防災炊飯



キャップハンディ・避難誘導体験